

2019 カラーユニバーサルデザイン普及キャラバン隊事業

学校のカラーユニバーサルデザイン推進支援講座

ワークシートおよびアンケート集計結果報告

学校のカラーユニバーサルデザイン推進支援講座 ワークシート

講座の中でご記入いただきます。アンケートと一緒に回収し、事業の報告、今後の活動資料として活用させていただきますのでご了承をお願いいたします。

1. 次の資料のうち、あなたが以前から存在を知っているものにチェック☑してください。

- ☐ ① 文部科学省「色覚に関する指導の資料」 2003 年作成(平成 15 年 5 月版)
- ☐ ② 公益財団法人日本学校保健会「学校における色覚に関する資料」 2016年3月発行
- ☐ ③ 愛知県障害福祉課「視覚情報のユニバーサルデザインガイドブック」 2018 年2月発行
- ☐ ④ 愛知県教育委員会「カラーユニバーサルデザインの推進について(通知)」啓発チラシ
2019年3月発出
- ☐ ⑤ 公益社団法人日本眼科医会 色覚啓発教材(PowerPoint)「学校関係者のための学校
における色のバリアフリー」 2019年4月

2. CUD についてあなたがこれまでに取り組んできたモノ・コトを記入してください。(具体的に)

3. CUD について今後、あなたや学校全体として取り組むべきと思うモノ・コトを記入してください。
(具体的に)

学校のカラーユニバーサルデザイン推進支援講座 アンケート

今後の活動改善のためアンケートにご協力くださいますようお願いいたします。差し支えない範囲でけっこうですの
で、以下の質問にお答えください。

1. あなたが所属する学校の区分はどれですか(一つに☑を入れてください)。

☐ 小学校 ☐ 中学校 ☐ 高等学校 ☐ 特別支援学校

2. あなたの職区分はどれですか(一つに☑を入れてください)。

☐ 一般教員 ☐ 養護教員 ☐ 教員以外の職員 ☐ その他()

3. あなたは色覚について関心がありますか(一つに☑を入れてください)。

☐ 色弱や色覚（色の見え方）の多様性について、これまであまり意識したことがなかった。
☐ 所属する学校に色弱の（あるいは色弱の可能性のある）児童・生徒や同僚がいるため、以前から関心があった。
☐ 自分自身また身近な親族等が色弱であるため、以前から関心があった。
☐ その他 ()

4. 講義「色覚の多様性とカラーユニバーサルデザインの知識——色弱の見え方理解とカラーユニバーサルデザイン改
善のコツ」およびワークショップはあなたにとって有益でしたか(一つに☑を入れてください)。

☐ ひじょうに有益だった ☐ まあまあ有益だった ☐ 普通 ☐ あまり有益ではなかった
☐ 意味がなかった ☐ その他()

5. 講義「色覚の多様性とカラーユニバーサルデザインの知識——色弱の見え方理解とカラーユニバーサルデザイン改
善のコツ」とワークショップの時間は適切でしたか(一つに☑を入れてください)。

☐ 長かった ☐ 少し長かった ☐ ちょうどよかった ☐ 少し短かった ☐ 短かった
☐ その他()

6. その他の感想(本日特に印象に残ったこと、疑問をもたれたこと、今後どのような講座があればよいか等、自由にお書
きください。)

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

ご協力ありがとうございました。

カラーユニバーサルデザイン普及キャラバン隊事業(2019 年度 愛知県委託事業)

学校のカラーユニバーサルデザイン推進支援講座 ワークシート記述回答集

実施年月日	参加人数	会場
2019 年 10 月 21 日(月)	20 人	半田市立岩滑小学校
2019 年 10 月 30 日(水)	9 人	東栄町立東栄中学校
2019 年 11 月 23 日(土)	18 人	愛西市立草平小学校
2019 年 11 月 28 日(木)	8 人	豊田市立明和小学校
2019 年 12 月 17 日(火)	22 人	刈谷市教務主任自主研修会

※ ワークシートの問1の集計結果については、10～11 頁をご参照ください。

以下は問2および問3の記述回答をほぼすべてそのまま(明らかな誤字脱字と思われるものは修正したうえで)掲載しております。

2. CUDについてあなたがこれまでに取り組んできたモノ・コトを記入してください。(具体的に)

- ・パワーポイントなどのプレゼンテーションソフトの文字を赤と青にするようにした。
- ・チョークでは白と黄色を基調に使用しておりました。赤は”見にくい”ということを昔、学んだことがありましたので、使用はひかえておりました。
- ・赤色チョークはあまり使わないよう意識している。
- ・めあてを赤で囲み、まとめを青で囲む。
- ・チョークは白黄を使って授業をするようにしている。
- ・白と黄のチョークを使うようにしている。
- ・板書する時にチョークの色(白・黄)などは配慮していました。
- ・チョークの色を使う順番(白→黄→赤→その他)
- ・板書での赤チョークの使用の仕方
- ・板書は基本的には白か黄色しか使わない。学年に応じた字の大きさを意識して板書している。
- ・チョークは黄色で大切なところを書く。
- ・丸つけは青、色えんぴつ(赤朱)
- ・ビブスは似たような色は同時に使わないようにしていた。
- ・特に取り組みはしていませんでした。
- ・知らなかったので取り組んでいない。
- ・知識がなかったので取り組んでいません。
- ・あまり意識していませんでした。
- ・緑の黒板に緑や青のチョークを使わない。蛍光でない赤を多用しない。
- ・色で区別するときは番号をつける。
- ・赤チョークを使わないように配慮してきたつもりだが、白と黄色でも差があまりないことを知り、おどろいた。
- ・研修会に参加し、チョークのことを知り、職員会で報告してチョークの取り替えを要望したことがある。
- ・チョークの色づかい。たくさん色を使わない。白-オレンジ、2色づかい。
- ・板書の字を大きくする。
- ・チョークの赤色、青色、緑色は見えにくいと聞いたことがあるので、板書するときにはなるべく使わないようにしている。
- ・赤(ピンク)のチョークをなるべく使わないようにしている。
- ・今までは、自分の好きなように色を使ってきました。かわいいとか強調は赤と思っていたけど・・・分からないですね。特になにも取り組んでいませんでした。
- ・理科の色分けでは何色かを板書する。
- ・チョークの色づかいで白・黄を基本にする。
- ・色づかいの変さを指摘しない。
- ・今まであまり意識していませんでした。
- ・ありません。

- ・特になし。
- ・板書は白か黄しか使わない。
- ・チョークは白・黄色を主に使う。赤は あああ や波線のみ。
- ・色をさす場合は、指差しや目標物を置いたり、色の名前を書いたりする。
- ・授業で使用するチョークの色使い。アプリを活用してビブスの色や教室掲示の配色を工夫すること。
- ・保護者の方へ連絡を伝える時に、連絡帳に子どもが書いたえんぴつの色とは違う色を使っている。
- ・研修会に参加した(昨年度)。
- ・職員図書に色弱関連図書を購入した。
- ・今回の研修を受けて CUD について細かく教えていただいたので、とても分かりやすかったです。特に C 型、P 型、D 型の違いが具体的で、色の違いの見え方は以前から聞いていたのですが、実際に体験してみて、よりはっきりと分かるようになりました。チョークの色は気をつけて使用していました。
- ・チョークは白を中心に大切なところは黄で書いています。色だけではなく、形を伝えて複数の情報から認識できるようにしています。
- ・学校で使用するチョークを CUD 対応のものに変えてもらうよう事務担当者に依頼した。
- ・去年は赤チョークを使わずに黄色チョークを使用しました。子ども達には黄色チョークは赤鉛筆で書くと伝えて使っていました。
- ・チョークの色はできるだけ白・黄色を使い、字の大きさにも気をつけてきた。
- ・保護者から相談があったときに、学校医に相談のもとスクリーニング検査をし、医療機関へつなげた。
- ・色の指示を出すときは指で差す等、話をする。ex)「この緑色を見て」「この白色です」
- ・チョークの色を白と黄のみにしている。
- ・黒板のチョークは赤や緑は使わないようにしている。
- ・白・黄・赤以外のチョークは使わないように心がけていた。しかし、それが色弱者にとってはよくないことだと気付くことができた。良い機会となった。黄・青を使っていきたい。
- ・赤が見えにくいということしか知らなかった。
- ・チョークの白・黄以外は、なるべく使わないようにしてきた。
- ・大事な言葉に下線を入れる。
太字にする。
- ・eye チョークの導入
- ・今回が初めてです。
- ・赤色のチョークは使わないように呼びかけた。
- ・(板書において)色覚に多様性がある子と、あらかじめチョークの色について、どのように見えるかを確認しておく。
- ・白と黄のチョークを主に使って板書をしている。
- ・校内の現職教育でチョークの色は、文字・数字などは白や黄色で書き、赤はアンダーライン、囲むなどのみで使用するよう統一している。
- ・チョーク→見本にいただいたものと同じものを使用している。板書については、白と黄色で行っている。赤色はアンダーラインのみ。
- ・色覚障害を持つ子の授業では赤色を極力使用しなかった。色をぬる際に、これが赤色であると指示してからぬらせた。
- ・なるべく青や緑の色チョークを使わないようにする。なるべく筆圧を強くして濃く書くようにする。なるべく太く文字を書くようにする。
- ・板書をするときは、「字を書くときは白、黄のチョークを使う」、「アンダーライン、囲むときは赤・緑・青を使う」ことを心がけてきました。
- ・特にありません。
- ・ADHD の子について、色について敏感な子について、板書前面の掲示について配慮したことはありますが・・・CUD については特に・・・
- ・黒板に使うチョークについては、対応チョークを使わせていただいております。
- ・子どもたちがなるべく見やすい色のチョークを使用していました。
- ・色覚対応チョークの使用
- ・なにもない。
- ・赤チョークで文字を書かない。本校職員にもそう指導しています。
- ・黒板に書く時に文字は白か黄で書くようにしていました。色覚対応チョークを使うようにしていました。
- ・特に意識はしていませんでした。

- ・赤色チョークを使う時に、見えるか子どもに確認した。
- ・色弱とは言葉として聞いてはいましたが、どのように見えているのか理解していませんでした。なので特に取り組んできたことはないです。
- ・色チョークの使い方を意識してきたが、色弱についてあまり考えていなかった。
- ・黒板に赤チョークはなるべく使わないようにしています。
- ・板書に、赤で文字はかかずに線を引いたり囲んだりして重要なところを示していた。
- ・チョークについて白・黄をメインに使ってきた。私も強調するところで使っていたが、P 型の人にとっては見えにくいということがよくわかった。

3. CUD について今後、あなたや学校全体として取り組むべきと思うモノ・コトを記入してください。(具体的に)

- ・学校で購入していく物の色の配慮
- ・そういう子がいるかもしれないと思いながら授業を行う。
- ・ビブスやチョークの色などの配慮
- ・見えにくい子、見え方が違っている子がいるかもしれないということを念頭に置き、指導・支援にあたっていきたいと思います。
- ・色を見分けにくい人にも情報が伝わるように、ことばを加えたり形を変えたりする工夫を心がけていけるとよいと思う。
- ・CUD のチョークにすると、多くの子が色の違いが分かっていると思います。
- ・教室内等の掲示物、プリント等カラーの印刷物等、配慮していくことが大切だとわかりました。
- ・色弱にいろいろなタイプがあることをはじめて知った。黒板の板書に使う色や使い方にも気づかひが必要だと感じた。特に赤色はなるべくさけていけるとよい。みどりの黒板にかくと分からない。
- ・色弱の有無に関わらず、色の種別選択を意識することが大切だと思います。
- ・色弱の児童がいる場合にバリエーションをかけた見え方について意識して対応していきたい。
- ・板書のときのチョークの色、掲示物など
- ・チョークの赤をめあてをかこむのに使っていたので、色の使い方を考えなければいけないと思いました。
- ・ふつうのチョークを使うなら、白・青・黄を使う(4 月に何色に見えるかをアンケートして事前に把握しておく必要がある)。
- ・黒板に書く時は、白や黄を中心に書く。
- ・チョークは黄色を活用するとよいと思う。
- ・黒板は白、黄、ピンクを使用するよう見やすい色を使うよう意識したい[ママ]。
- ・ビブスなどの色分けをする際も、今回の内容を意識して使用する色を考えたい。
- ・今回のように理解や学ぶ機会(先生や児童に対して)の確保があると良いと思います。
- ・赤や青はちがいがわからない。緑も判別しにくいので気をつけます。
- ・色弱の子に対して、見分けづらい色があると理解できました。配慮できるようにとりくんでいきます。ありがとうございました。
- ・赤を使うときに、ふちの色をつける。背景の色を考える。
- ・黒板はホワイトボードなどにすべきだと思う。
- ・思いやりをもって人と関われるように、各教科の中で生徒が学習することや、教員も研修を積むことが大切だと思う。また親自身も子育てをする中で、地域の保健活動の場で学ぶことが必要であると思う。
- ・チョークの使い方や色の合わせ方はすぐに共有して取り組める。
- ・普段あまり意識していなかったのが、子どもたちがどういう風に見えるのかを考え、見やすい、区別しやすい色使いをしていこうと思いました。
- ・色のちがいでだけでなく、線を引いたり囲ったりすることの工夫。
- ・思いこみによる発言に気をつける。
- ・知らなければ、ずっと知らずに過ごしたしまったと思います。今回学ぶ機会をいただき、色で困る子への配慮をしていく必要があると思います。子どもだけでなく世の中には大人もいることがあり、C 型の私たちができる支援&サポートをしていかなければと思います。学び-生かす大人でありたいです。
- ・全体的に色の見え方は一人一人異なることを伝える。
- ・見にくい時はすぐに申し出ることのできる雰囲気づくり。
- ・板書の時のチョークの色。
- ・体育館の線は「何色の線」や「どここの線」など、具体的に言う。
- ・白・黄色を有効活用していこうと思います。

- ・どの子も困らない色づかいや資料の工夫。
- ・黒板の字は黄色と白を積極的に使っていきたい。
- ・色弱である子がいる可能性が高いことを意識した、子どもや保護者とのかわり方を考える。
- ・赤ペンで採点した事を改めて思い知らされた講座でした。今後は色覚・色弱児に対する指導を知識として生かしていかなければならないと思います。
- ・板書で使うチョークの色を職員間で共通理解したいと思います。
- ・CUDに基づいた板書、指示の徹底。
- ・チョークの使う色やピブスの組み合わせ、カラーコーンの色等使う時に配慮する。
- ・教材で使われている色の確認。
- ・体育での指示で、「水色のラインから」などの色を使った指示を多く使っていたので、注意していきたい。
- ・筆圧、ピブスの色の組み合わせ、字の大きさ
- ・白や黄色のチョークが見やすいこと。また字が大きい方がよいことを知りました。その点を意識できたらと思います。
- ・検査が廃止されたので、クラスの中にいるかもしれないという気持ちで授業や掲示物作りに取り組んでいきたい。
- ・黒板の字を見やすいものにする。白、黄チョークを基本にする。
- ・色弱の児童についての情報を引き継いでいくこと。今回のような研修を行って知見を深める。
- ・白色のチョークを使い、他の色は使わない。大事などころなどマークを学校全体で決めておくとういと思った。
— , ~~~,  (重要), ☆, ◎ (めあて) など
- ・色だけでなく形や「これ」と指差すなど、他の情報も与えるよう心がける。
- ・黄と青の色を積極的に取り入れる。赤のものに、黒字を使わない。色のみではなく、ポインティングをし、情報を増やす。
- ・チョークの使い方を適切にしたい。白や黄を使って太字で、書く。
- ・図工の時に、色の組み合わせをおしつけていたように感じた。可能性を考えて見守っていきたい。
- ・掲示物配布物の配色や言葉の入れ方
- ・色覚異常に限定せず、そこをよりどころとして、全ての色に関して、見ることにに関して、弱い方たちを配慮した活動にシフトしていくべきだと思う。
- ・指さす、文字を入れる(ふりがなも含む)という配慮が必要
- ・色の使い方 誰にでも優しい配色、色以外の情報もセットで、色に頼らない(色以外で認識できる)言葉で、
を念頭に、まずはまわりの環境を見直したい。
また分かる授業において色の使い方(上記の3点)にも意識していきたい。
- ・チョークの色の配慮、色以外の情報も併用、色だけの指示ではなくきちんと示すこと。
- ・家庭や子どもに配布するプリント類の色
- ・黒板のチョークの色
- ・数パーセントとはいえ、教室の中に色を見分ける事ができない生徒がいるということを全職員に認識させること。
- ・資料をカラーで提示する場合、CUDについて配慮する。
- ・板書のチョークの色やみやすいチョークを使用する。
- ・丸つけのペンも太めのものをつかうなどするとよい(場合によるが)
- ・色弱の子どもへの配慮が必要なことを共通理解していく取組をしていく。
- ・ピブスの色は気づかなかったのでチーム対戦する場合は見分けのつく配色にしたい。
- ・青や緑など見えづらい色で板書、プレゼンテーションを行わないようにする。
- ・赤・緑・ピンクは見えにくいので使い方に配慮する。校内表示にはあわい色は使わずになるべく濃い色を使うようにする。
- ・特に男子の場合5%(20人に一人)ということは「必ずクラスに一人…」とは言わないまでも「学年内にはきっといるだろう」ということを前提に、子どもに指示を出したり指導に当たるようにしていく。
- ・講座にもありましたが、「ピブスの色はカラフルの方が分かりやすい」という思い込みはやめるようにする。
- ・マイノリティーの生徒に対しての配慮がこれからもっと進んでくるものと考えられます。「いないからいい」ではなく、いるかもしれないと思って指導することが大切だと思います。
- ・できるだけ多くの職員にいろいろな子どもがいることを理解してもらい、共通理解のもと合理的配慮などできる限りしていく必要があると感じました。
- ・まずは学校でこのような研修会を行うことが大切。
- ・丸つけペンのインクを朱にする。CUDについての知識・理解を広める。
- ・色を指定する時には文字を入れるようにする。例えば「ピンクの封筒に入れる」とあれば封筒に ピンク と印刷しておく。
- ・チョークの色を考える。赤色は使わない。色覚対応のチョークを利用する。

- ・危険度の高い所へ注意をうながす場合、色弱の子でも分かる表示にしておくべきだと感じました。
- ・色別が分かりやすいと思っていたが、それだけでは色弱の方に対応できていないことに気づくことができた。似かよって見える色の組み合わせを使わないように心がけていきたい。また色だけの情報でなく、他の情報を組み合わせるようにしていきたい。
- ・赤ペンでの添削は朱赤にしていきたい。
- ・配布資料と掲示資料など、コントラストの強いものに改善する。
- ・色弱についての理解を広げる。
- ・まずは私たちがこのような状況があるということを知ることから始まる。私たちは常に最新の情報を取り入れていかなければいけない。時代おくれになるということを改めて感じた。

学校のカラーユニバーサルデザイン推進支援講座 アンケート自由記述回答集

※ アンケートの問1～5の集計結果については、10～11頁を参照ください。

以下は問6の記述回答をほぼすべてそのまま(明らかな誤字脱字と思われるものは修正したうえで)掲載しております。

問6 その他の感想(本日特に印象に残ったこと、疑問をもたれたこと、今後どのような講座があればよいか等、自由にお書きください。)

- ・色弱についてまだまだ知らないことも多く、実際に体験することができて良かった。しっかりと配慮して授業をしていきたい。
- ・これまでも何となく配慮しなくてはと思っていたけど、実際に自分で体験してみると、本当に配慮しなくてはという思いを強くもつことができました。どうもありがとうございました。
- ・色弱の児童がいる可能性があることは知っていましたが、日頃の授業などであまり配慮していなかったので反省しました。とても勉強になりました。
- ・子どもたちにバリエーションを体験してほしいなと思いました。私たちが当たり前前に認識していた色が全く見えない(判別できない)ことに驚きましたが、日頃の色選びに今後役立てていこうと思いました。
- ・日常生活の色が少なくなり、少しさみしい感じがした。先生ペン(マルつけ用)ははっきり見えたので利用していきたい。
- ・男性の比率を見ると20人に1人ぐらいということは、クラスに1人はいる比率と言える。そういったことを考えて気をつかう必要性があると感じた。
- ・見えている世界がメガネをかけることでとてもよくわかりました。色分けが逆にユニバーサルになってないと思ったり、新しい発見がありました。ありがとうございました。
- ・ぜひこのような活動が広がっていき、愛知県全体が色弱の子に対して配慮できるといいと思いました。
- ・見えにくい子、見え方が異なる子などに十分配慮していくことが必要だと思いました。今まで当たり前と思っていた見え方に感謝しました。様々な気付きを与えてくださり、ありがとうございました。
- ・事前の説明が長く、もう少し短くなればよい。パワーポイントを全て読むのではなく、いくつかだけを説明して、すぐに体験をすればよい。その後少し解説した方が理解しやすい。
- ・日頃あまり意識していなかったことをあらためて認識しました。
- ・バリエーションを使って色弱の体験ができ、貴重な機会となりました。かろうじて識別できても、見えにくいことはあまりかわらないと感じました。
- ・赤色のペンの見にくさに驚きました。
- ・普段意識したことがなかったが、児童の中にも色弱や色覚がいる[ママ]可能性がある。配慮した色づかいをしたいと思う。
- ・色弱の人がどのような見え方をしているか体験できてよかった。色弱の人のお話を直接聞くことができてよかった。
- ・色の区別がしにくい組み合わせにはいけないということがわかった。細い赤のボールペンは黒と区別しにくいこともわかった。短い時間にたくさんのことをお伝えいただき、本当にありがとうございました。
- ・食べ物(いちごなど)が黒く見えたりしていることがメガネをかけてみてよくわかった。信号はとても見やすかった。安全に配慮されていることがよくわかった。
- ・タイプがあり必ずこの色ならというものはないということ、また、もしかしたら、ちがう色に見えているかもしれないと思って対応を考えていこうと思います。

- ・以前講習会を受けたことがあったが、ほとんどの内容が新鮮に感じられた。日常的に意識していることでないの[Mama], だんだん知識としては減ってくるんだなと反省しました。せっかく講義を受けたので、しっかり理解して活用できるようになりたい。
- ・様々な特性をもった人が一緒に生活している中で、それぞれを受け入れて生きづらさがなく生活できるように今回のような研修は大切だと思う。今回は体験を入れた研修であり、とてもわかりやすかった。
- ・栄養教諭の私は、ピーマン等野菜の見分けや肉の焼き具合等にも色の見え方が異なることを知り驚いた。食べ物カードをよく使用しているが、もしかしたら見えにくい子もいたかもしれない。教えていただいたことを生かし授業づくりや、たより、掲示物づくりをしていきたいと思いました。よい時間をすごさせていただきました。ありがとうございました。
- ・色弱の人の方がよく見えるものがあること。焼き肉の色の変化がわかりにくいこと。青色がよく見えること。赤と緑はみえないこと。赤より朱がよいこと。ふちどりや境をつけると見やすくなること。
- ・実際にバリエントールをかけて見て、赤、緑の区別が全然つかなかったことに驚いた。ホワイトボードの赤も見えにくかったので、今後、色の使い分けを意識したい。色弱の方の困りぐあいを知るよい機会となった。
- ・こういう風に見えている、困っている人がいるという認識をもって生活していきたいと思った。
- ・まわりの人が理解していることで救うことのできることがあると感じました。本人も知っていること、まわりも知っていることで、変な気を遣わない世の中にしたいです。
- ・理科を指導しているので、リトマス紙等色の反応のある学習や色の学習など配慮しきれない面を感じた。言葉、知識として指導するのも難しいと思った。
- ・困り感のある事例を多く紹介していただくと、共感してもらえるのではないかと思います。
- ・自分の見え方では気づけないことを実際に「バリエントール」で体験できたり、講義の中で知ることができました。ありがとうございました。
- ・バリエントールの体験は具体的に困り感を感じることができた。改めて配慮すべき意識をもつことができた。
- ・授業等で声かけを意識したいと思います。
- ・実際に色弱者の方の生の声を聞け、意識が高まりました。実体験をたくさんお話していただき、ありがとうございました。
- ・20人に1人の割合で色弱の児童がいることが分かり、もっと色弱や色覚の多様性について知り、対応すべきだと感じました。
- ・楽しく勉強できました。
- ・養護教諭として勉強したことがありましたが、学校現場に合わせた内容が聞けて大変勉強になりました。子どもが困り感を持ったときに支援できるように、さらに理解を深めていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・昨年自分自身が参加して(講演会・ワークショップ)大変勉強になったので、今回現職教育でお願いをしました。教員で共通理解ができてよかったです。又今日研修したことを生かして子どもたちを見ていきたいと思います。有意義な研修になりました。ありがとうございました。
- ・石原式色覚検査を受けていない年代なので見れて良かったです。
- ・色覚の多様性について少しの知識はもっていましたが、本日くわしく知ることができました。赤ペンで○つけをすることが多いので気をつける必要があると思いました。
- ・図工の時はどうするといいいですか。リトマス紙は・・・
- ・当事者Kさんが「あきらめるしかない」と2回おっしゃったので、このあきらめるしかないという言葉が出ない世の中にしたいと思った。でも、青黄には自信があると書いていたので、強みも感じることで良かった。
- ・色覚異常や一型二型の呼び方が、医学的であることに気づいていなかった。
実際に体験してみて、赤だけでなくパステルカラーなども区別が難しいということに気づけた。
- ・CUDの方が、色別しにくい色のことをどうやって知ったのか。
子どもに色をぬる指導をする場合、CUDの可能性も考えて指導する必要がある。そんな講座があれば。
- ・C型の方の見え方と、P型の方の見え方のシミュレーションがあり、大変分かりやすかった。
青と黄を使うことを意識したい。
- ・受講させて頂き、大変良かったです。
- ・P型は、赤と黒が黒色に見える。→配慮せねば・・・
青色と黄色を使おう。白色も。
バックの文字の組み合わせに意識せねば・・・
草むらの中のバッタ、水の中の魚を見分けやすいことを知った。これを活用してヒーロー、ヒロインを考えもよいのではないかと思います。(原文のまま)
- ・「弱み」としてだけでなく「強み」を生かすという視点で、子どもたちや出会う人のための環境を整えられるようにしたいと考えます。

- ・黒板に書くチョークの色を白と黄色を活用して、色で説明するときは色名を言って
→授業で気をつけたいと思った。色に見えているかもしれないと思って対応を考えていこうと思います。
- ・ワークショップで実際に色弱の方の世界を体験することができ、身をもって CUD の大切さを感じることができました。実感することが配慮するための一歩となると思います。校内で他の先生方に伝えていきたいです。
- ・どのように見えているのか、全く知らなかったのも、とてもためになりました。今後、配慮していきたいと思います。
- ・大変さを口に出して言えない子への配慮をしていかなければいけないことを改めて感じました。
- ・レーザーポインターの見え方、赤・緑は全然意識したことがありませんでした。集会などよく使用しますので、緑系に切り替えたいと思いました。採点する時に朱色を使うように心がけたいと思います。
- ・学校で利用している様々な教材をカラーユニバーサルデザインの視点で見直す必要があると感じました。
- ・赤が黒に見えること。図工や美術での色の学習で、色弱の子どもにどのように指導、支援していったらよいか知りたい。
- ・バリエントールで体験できたことは大変有意義でした。今後のさまざまな提示の仕方にも気を配りたい。将来の職業選択において CUD の児童はこまることもあると聞く。児童においてどのような配慮が必要かも学ぶ大切さを感じた。
- ・会議等にも色覚弱者の児童について話題に挙がらなかったのも不勉強でしたが、学校に戻ったら早速養教に確認しようと思いました。今後もここで得た知識を忘れずに色弱で困っている児童が出てきたら適切に対応したい。
- ・実際の自分の目で色弱の体験ができたことで、自分の中に色弱や色覚に対する関心が高まりました。貴重な体験をありがとうございました。
- ・大変勉強になりました。特に緑と黄色が同じ色に見えることはおどろきでした。また、赤やピンクもほとんど色がついていないと思うほどわからなくなることにおどろきました。
- ・TV 番組の特集などでも取り上げられていることはありましたが、「バリエントール」の見え方を初めて体験し「いかに色に頼った生活、学校での指導をして来たのか」を反省させられました。とてもよい経験、研修になりました。
- ・とてもわかりやすい説明でした。ありがとうございました。ぜひ学校でもやっていただきたいと思いました。
- ・いろいろな子どもに対応する、理解するためにも、とても役立つ内容でした。今後に役立てていきたいです。ありがとうございました。
- ・今まではどのように見えているか予想もしなかったが、バリエントールで見て初めて見えている世界が違うということが体験できてよかった。今後の指導に役立ちそうです。本日はありがとうございました。
- ・これまで色弱がどのような見え方をしているか全く分かっていなかった。今回この研修がなければ今後も知らないままであった。世の中は更に分かっていない状態なので、一般的に広く知ってもらわねばと感じた。
- ・子どものことを大切にすることを意識してきたつもりであったが、色弱については、その存在すら考えていなかったことに気づかされた。具体的に困る場面がよく分かった。色分けをして運動会のチーム分けのためにピブスを何色も用意しているが、中には見えない子もいることを、しっかりと考えていきたい。
- ・このようなことは私たちもとにかく情報を仕入れていかないといけないと思った。さらにこれを私たちから他の先生たちにも伝えていかなければいけないと思った。とにかく最新の情報を仕入れて、それに対応することが大切だと本当に感じた。
- ・すべての教員が理解することが大切だと思います。
- ・黒板に書く文字の色に今後注意していこうと思いました。教室内の明るさも影響を与えると思うので、教室内の明るさにも注意したいと思いました。
- ・色弱にはいろいろなタイプがあり見え方が違うことが分かった。バリエントールを利用して体験することで理解が深まった。赤色は難しい色だということが分かった。本日はありがとうございました。
- ・光学メガネをかけると視野の上・下・中央の色の見え方がごろごろかわり気分が悪くなってしまった。赤を使わない方がよいことはうすうす知っていたが、体験を通すとより実感できた。

以上

ワークシート問1 回答集計

問1 次の資料のうち、あなたが以前から存在を知っているものにチェック☑してください。

- ①文部科学省「色覚に関する指導の資料」2003年作成（平成15年5月版）
- ②公益財団法人日本学校保健会「学校における色覚に関する資料」2016年3月発行
- ③愛知県障害福祉課「視覚情報のユニバーサルデザインガイドブック」2018年2月発行
- ④愛知県教育委員会「カラーユニバーサルデザインの推進について（通知）」啓発チラシ 2019年3月発出
- ⑤公益社団法人日本眼科医会 色覚啓発教材（PowerPoint）「学校関係者のための学校における色のバリアフリー」2019年4月

①	②	③	④	⑤	問1の回答者数・%		参加者数
12	6	5	10	3	25	32%	77

アンケート集計（回答者数 77）

問1 あなたが所属する学校の区分はどれですか。（回答者数 77）

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
回答数	61	15	0	1
%	79%	19%	0%	1%

※ 特別支援学校からの参加者は刈谷市教務主任自主研修会の1名

問2 あなたの職区分はどれですか。（回答者数 77）

	一般教員	養護教員	教員以外の職員	その他
回答数	70	3	0	4
%	91%	4%	0%	5%

その他の内容 栄養教諭（東栄中学校）1名、管理職3名（草平小学校2名、明和小学校1名）

問3 あなたは色覚について関心がありますか（いずれか一つにチェックをいれる）。（回答者数76、1名が①と④にチェック）

- ①色弱や色覚（色の見え方）の多様性について、これまであまり意識したことがなかった。
- ②所属する学校に色弱の（あるいは色弱の可能性のある）児童・生徒や同僚がいるため、以前から関心があった。
- ③自分自身また身近な親族等が色弱であるため、以前から関心があった。
- ④その他

	①	②	③	④
回答数	49	19	1	8
%	64%	25%	1%	10%

その他の内容

- ・以前色弱の児童を担任したときは配慮したことがある。
- ・以前担任した児童が色弱だったため関心があった。
- ・友達に色弱の人がいて興味関心は昔からもっていた。
- ・自分が色の濃淡が見えにくいため。
- ・以前の同僚、過去に教えた子にいたので関心あり。
- ・来年度から使用する新しい教科書の裏表紙にカラーユニバーサルデザイン使用と記されていて、興味をもっていました。
- ・配慮が必要だと分かっていたが、できていなかった。
- ・検査を担当することが多いが、これまで強い色弱の生徒が少なかった。
- ・関心は多少あったが、積極的に情報を得ようとはしていなかった。

問4 講義「色覚の多様性とカラーユニバーサルデザインの知識——色弱の見え方理解とカラーユニバーサルデザイン改善のコツ」およびワークショップはあなたにとって有益でしたか（いずれか一つにチェックをいれる）。（回答者数 76）

	ひじょうに有益 だった	まあまあ有益 だった	普通	あまり有益では なかった	意味がなかつ た	その他
回答数	55	16	5	0	0	0
%	72%	21%	7%	0%	0%	0%

問5 講義「色覚の多様性とカラーユニバーサルデザインの知識——色弱の見え方理解とカラーユニバーサルデザイン改善のコツ」とワークショップの時間は適切でしたか（いずれか一つにチェックをいれる）。（回答者数 76）

	長かった	少し長かった	ちょうどよかった	少し短かった	短かった	その他
回答数	2	7	62	4	0	1
%	3%	9%	82%	5%	0%	1%

その他の内容 途中席を外していた。

